

[ライブ・サーティー]

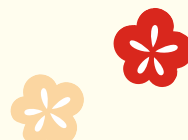
Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

208

2015年
1月-2月



(表紙写真はひつじ年生まれの職員)

TOP MESSAGE

ごあいさつ 大道道大 (社会医療法人 大道会 理事長)

CLOSE UP

救急蘇生技術を全職員が学んでいます

森之宮病院救急蘇生トレーニングチーム

OMICHI ACADEMY

第22回国際障害者歯科学会議

第68回アメリカ脳性麻痺・発達医学会

OMICHI SCRAMBLE

看護学生に出張臨床実習指導を行いました

平成26年度大阪府知事表彰を受賞

INFORMATION

森之宮病院で呼吸ケアチームが発足

ボバース記念病院歯科診療部口腔外科部長・藤井亮介歯科医師の発表が表彰される

森之宮クリニック・高見元敬所長と細木拓野診療部長が手がけた書籍が出版されました



最優秀賞
「Live30」
開設以来の30年を振り返り、
最も優秀であったことを認め、
最優秀賞を受賞します。
日本医療振興会

ごあいさつ

地域での大道会の役割を 一から考え直す基礎固めの年に

社会医療法人 大道会 理事長
森之宮病院 院長
大道 道大



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、大道会創立60周年を迎え、10月には帝国ホテル大阪での記念式典の挙行と記念誌の発刊を無事終えることができました。一方、世間に目を向けると、医療に関連する大きな出来事として、4月には消費税が5%から8%になり、国民の生活に大きな影響を与えました。また、広島市の土砂災害や御嶽山の噴火で多くの人命が失われるという悲しい出来事が相次ぎました。しかしながら、ノーベル物理学賞に3人の日本人が選ばれるという大変喜ばしい出来事もあり、苦境を乗り越えることができる日本の底力を感じた一年でした。

これまでの大道会の歩みを改めて振り返ると、様々な困難に直面しながらも救急医療、在宅医療、都市型リハビリテーション、先端医療と、時代が必要とする医療・福祉を、常にさきがけ、地域に根差して提供してきた60年であったと感じています。この間、法人の規模は大きくなってきましたが、病床数や施設数をただ増やすことを目標にしてきたわけではありません。地域の皆さんが安心して受けることができる医療・福祉を60年もの長きにわたって提供し続けてきたこと、これこそが私たち大道会の職員が大事にしてきた医療人としてのプライドです。

今年一年は、その医療人としてのプライドの真価が試される年であると考えています。

まず、大道会がこれから医療や福祉を提供していく「地域」とはどのような範囲なのかという定義を共有する必要があるでしょう。また、2025年に向けて構築が進んでいる「地域包括ケアシステム」や昨年からスタートした医療機関による「病床機能報告制度」、都道府県が策定する「地域医療構想」等を念頭に、大道会の各病院・施設の役割を一から考え直す必要があります。今後、大道会が中心となってどのような役割を果たしていくべきか？また、他の病院や施設に果たしてもらいたい役割は何か？それらを明確にして、それぞれの役割を果たすべく、法人内の機能を再編成し、他の病院や施設との間で連携を深めていかなければなりません。

大道会では2010年から「未来創造プロジェクト」と名付けた法人全体での様々なプロジェクトや研修を実施してきており、幸いにも、大道会が果たすべき役割を職員同士で議論できる素地ができつつあります。今年一年をかけて地域の皆さんからの声にしっかりと耳を傾けながら、職員一人ひとりと共に考えていきたいと思っています。

救急蘇生技術を全職員が学んでいます

森之宮病院救急蘇生トレーニングチーム

救急蘇生トレーニングチーム発足

皆さんは、病院の中の急変時対応と聞いて誰をイメージしますか。多くの方は、医師や看護師を思い浮かべることでしょう。しかし、実際はリハビリテーションの訓練中や、検査、受付周辺など、医師・看護師以外の職員の前で患者さんが急変するケースは、想定外の出来事ではありません。

心肺停止状況は、発見から心臓マッサージ・人工呼吸・AEDの実施を途切れなく実施することで救命につながるができます。街中にAEDが設置され、多くの市民が救急蘇生法を学ぶ現在、病院で働く職員が職種に関わらずその技術を持つことは必須です。

そこで、森之宮病院の全職員を対象に教育活動を行うことを目的に救急蘇生トレーニングチームを発足しました。チームメンバーは目的に賛同し、協力を快諾した医師をはじめとする多職種有志です。チームリーダーは歯科診療部の旭吉直診療部長です。プログラムのシナリオや教材作り、教えるための技術練習等、時間をかけて準備を行い、トレーニング活動を開始しました。



チームメンバーの練習風景・ホワイトボードに課題を書き出し、話合ってプログラムを作りました

院内受講者100人を突破

現在、院内では救急蘇生トレーニングを月1回、定期的に開催しています。2014年11月20日に、トレーニング活動開始から1年を迎え、受講者が100人を超えました。トレーニング内容は、BLS (Basic Life Support) と呼ばれる一次救命処置プログラムですが、病院職員向けということで、バックバルブマスクを使つての人工呼吸法等のプ

100人突破を記念してインストラクターと受講者で記念撮影。前列の受講者が持っているのは、受講者に必ず渡す人工呼吸用の携帯マスク



■トレーニング活動風景



トレーニングルームは外来待合室に設営



内科の小竹淳一郎医師による分かりやすいAEDのデモンストレーション



トレーニングは真剣かつ正しく



手動式人工呼吸器のトレーニング

ログラムも盛り込んでいます。受講者が限られた時間で知識・技術を身につけるよう、動画やデモンストレーションを効果的に使いながら、体験が多くなる内容を心がけています。チームメンバーは、公式のBLSプロバイダーコース、またはそれに準ずる研修を受講し、正しい技術に基づいてトレーニングを実施しています。受講者からは、「院内で、もしも倒れている人がいたら、これからは何かできそう」「心臓マッサージを続ける

大切さを知った」「AEDのスイッチを押す時、緊張した。今度から駅等で、どこにあるか確認しようと思う」といった嬉しい声が届いています。

職員の救急蘇生技術のさらなる向上をめざして、これからもがんばって活動していきます。ぜひ、皆さんのご協力をお願いいたします。

(森之宮病院看護部外来看護科科长 正壽佐和子)

第22回国際障害者 歯科学会議

発表報告



森之宮病院
歯科診療部部長
旭吉直

優れた日本の 障害者歯科医療を実感

日程：平成26年10月1日～4日
場所：ベルリン

平成26年10月にベルリンで開催された第22回国際障害者歯科学会議(International Association for Disability and Oral Health: IADH)に参加し、「リハビリテーション」中の脳卒中患者の咀嚼能力」という題名でポスター発表を行いました。内容は、リハビリテーションを受けている脳卒中患者さんの口腔内状況、咀嚼能力、咬合力と脳卒中との関連を分析したもので、新潟大学大学院歯科学総合研究科包括歯科補綴学分野の小野高裕教授との共同研究です。

発表当日、英語での説明にトライし、イタリアの女性にポスターの感想を求めると「ブラーボ！」と連呼され驚きました。全身麻酔に関するシンポジウムや口演発表でも積極的に質問し、休憩時間には外国の参加者と全身麻酔下歯科治療について情報を交換しました。歯科医師による全身麻酔が困難な国が多い一方で、日本の優れた医療を再認識しました。ただし、ある日本障害者歯科学会員が日本の障害者歯科医療の歴史と現状について発表した際にIADH会長から「日本の素晴らしさは分かったから

もっと英語で発表して欲しい」と注文されました。今後は英語で海外に向けての情報発信が必要と言えるでしょう。

第68回アメリカ脳性麻痺・ 発達医学会

受講報告



森之宮病院
小児神経科部長
荒井洋

国際学会に参加して 脳性麻痺の最新知識を吸収

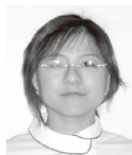
日程：平成26年9月10日～13日
場所：アメリカサンディエゴ

アメリカ、サンディエゴで開催された学会では今回も脳性麻痺に関する多くの新しい知識に触れることができました。日本とは異なり、欧米のほとんどの国では脳性麻痺の発症率が減少しており、障害の程度も軽いことが報告されました。日本の周産期医療は世界一と言って差し支えないレベルではありますが、救命率が向上する一方で脳障害の発症率や重症度が高くなっている可能性があります。治療方法については、片麻痺に対する健側の抑制療法が非常に勢いで世界中に広まっていることが知らされました。この方法は日本ではまだ成人脳卒中に対してしか行われていないため、平成27年の日本小児神経学会(大阪)で、オーストラリアでの普及に尽力されたBoyd教授にご講演頂く予定です。また、小児の抑制療法の第一人者、Gordon教授にも日本での講演を依頼しました。こ

のような新しい治療法を含めて、日本でも治療の選択の幅が広がれば幸いです。私は、ボバース概念に基づく治療が入院による機能の変化に影響を及ぼすか検討した研究についてポスター発表をしました。多くの討論はできませんでしたが、今後も継続的に研究を進めていくことに価値があると感じられました。学会には患者さんやご家族も参加され、脳性麻痺の方々が個性を主張し、生き生きと社会参加されている姿が目のとたりにしました。一方、帰国後は、「楽しめることがない」「介助してもらっていることが辛い」と診察室で患者さんに泣かれる経験をしました。障がいを受け入れ、ともに楽しめる社会を作ること私たちの課題ではないでしょうか。

医療事故被害者家族の 声を聴いて

参加報告



森之宮病院看護部
外来看護科
酒井晴恵

医療事故被害者家族の立場から 医療従事者に望む事

日程：9月9日
場所：大阪府病院年金会館

「医療事故被害者家族の立場から医療従事者に望む事」より良い信頼関係を持つために必要なこと」をテーマにした研修会に参加しました。講師は、阪南医療福祉センター・阪南中央病院患者情報室「とまり木」の北田淳子氏です。

北田氏は、現在勤務されている病院でご主人を医療事故で亡くされました。こ

主人は1999年に40代で筋萎縮性側索硬化症を発症し、2001年人工呼吸器管理となり、2003年には胃ろう造設となりました。そして、2004年に胃ろうのボタン交換で入院した時に、事故が起きました。

入院当日、病院で人工呼吸器の回路交換を実施。夜間、人工呼吸器は問題なく作動していましたが、症状の進行で発語できなくなったご主人は、気持ちが伝わらず不安になられ何度か自宅へ電話をされました。北田氏は病院へ戻りご主人を説得し、帰宅。

翌朝、人工呼吸器から異常を知らせるアラームが鳴り、看護師が確認するが原因はわからず、吸引・スクイージングしても状態は変わらず、当直医に連絡するも医師からの応答はなし。北田氏にも連絡が入りましたが、話す様子から緊急性は感じられず、北田氏はアラームから1時間後に病院に到着。しかしその時すでにご主人は心肺停止状態で、心肺蘇生処置がされていました。心肺は再開されるも意識は戻らず、2カ月後に亡くなりました。

北田氏が挙げた問題点は、①人工呼吸器のトラブル時は手動換気にすべきであった、②緊急時の伝達方法も表現がいまいで緊急性が感じられなかった、③申し送りの重要さの3点でした。

北田氏が、なぜ医療事故のあった病院で現在勤務しているのかについては、病院と当該看護師から謝罪があったことや、主治医の患者への思い、病院スタッフの家族への対応を挙げられました。事故を許すことはできないが、正直に被害者家族に向き合う病院の姿勢が、自身の

気持ちを変えず前向きにしてくれた。被害者の一番の思いは、「何が起きたのか、真実が知りたい」ということと話されました。

「ご主人の病氣・事故を通して北田氏は、チーム医療の大切さ(患者もチームの一員で、病院全体での情報共有が必要)や、コミュニケーションの大切さ(患者・家族と医療者とのコミュニケーション、医療者間のコミュニケーション)、危機管理の大切さ(間違いは起こり得る)を改めて認識されたといえます。」

そして、当該病院に勤めてこそ感じられたことは、被害者だけでなく当該看護師や部署に対してのサポートの重要性です。事故後、個人の責任ではなく組織として対応し、カウンセリングを受けることで現在も、誰も辞めることなく仕事を続けているとのことでした。

今回の研修では、医療事故は起こしてはいけない事ですが、起きた時にはどうすればよいのかといった情報・知識を得ることができ、とても貴重な時間となりました。

参加報告



野中 優
本部管理部
課長

AMANO HR ソリューションフェア 2014 in OSAKA

新しい時代に求められる ワークライフバランス

日程：平成26年11月14日
場所：ヒルトンプラザ大阪

アマノ株式会社主催の「AMANO HRソリューションフェア2014 in OSAKA」に参加させて頂きました。その中で株式会社ワークライフバランスの横山真衣氏がプレゼンされた「企業の魅力を高めるワークライフバランス」について報告します。この会社はワークライフバランス向上のコンサルティングを全国で展開されている有名企業の一つです。

プレゼンはワークライフバランスをワークとライフの単なるバランスと考えるのではなく、お互いが相乗効果を生み出すシナジーであるという内容でした。一般的に、ワーク7割ライフ3割等のことを考えがちですが、そうではなくワークとライフにはつながりがあり、ライフを充実させるとワークが向上するという考えです。

日本人の残業時間は、世界でも常にトップクラスに位置していることから、個人にとって労働の重要性は高いことが伺えます。しかし成果である労働生産性の付加価値では、OECDの33加盟国中で22位、先進国だけで見ると最下位になっており、頑張っているだけの成果が得られていないのが現状です。恐らく高度成長期時代のワークスタイルの名残でワークをワークでフォローし続けたことが大きな原因であり、ライフが充実せず、疲弊する日本人が数多く生み出された結果でもあります。

今後の団塊ジュニア世代のワークスタイルでは、働きながら育児、介護を行うことが団塊世代以上に求められると考えられており、高度成長期時代の古

いワークスタイルでは到底、太刀打ちできず、早期に現在の人口オーナス期(少子高齢化時代)に順応した対応をしなければならぬと話されました。企業対策でも正規・非正規職員の積極的な融合が今後のポイントで、育て上げた優れた人材の流出を如何にして食い止めるかが課題となり、簡単に職員が退職を選択しない企業独自のワークスタイルの検討が早期に必要なことでした。そうすれば職員のワークスタイルにも変化が見られるはずで、様々な公共サービスを利用しながら自動的に育児、介護にも対応することができ、結果的にはワークへつながっていきます。

高度成長期時代に残業漬けで鍛えられた定年退職者の方々の苦労話として「今まであなたは仕事を理由に何も手伝わってくれなかった」と家族から永遠に言われ続けている現状があるそうです。会場では笑い話でしたが、逆に「長い間お疲れ様でした」と家族に心から言ってもらえるワークライフバランスの取り組みを、今後の大道会でも考えていきたいと思っています。

受講報告



竹村 芙雪
本部管理部
人事課

2年目職員 フォロワーシップ研修会

課題解決スキルの重要性を 再認識

日程：平成26年12月6日
場所：森之宮病院ウツディホール

「課題解決手法 考え方の基本 問題と課題を見つける」がテーマの今回の研修で、課題解決とは、「課題発見」→「課題分析」→「解決策立案」の3ステップで進めるものであると学びました。

一般職員は顕在型の問題に直面し対処することが多く、役職が上がるにつれ潜在型の問題や創造型の問題に対処する割合が増えます。一般職員も潜在型の問題について意識しなければならぬと感じました。そのためには日頃から周りをよく観察し、能動的に五感を働かせて問題の兆候を感じ取ることが必要です。日頃から意識を高めることで些細な変化に気付くことができ、大きな問題を防ぐことにつながります。問題の兆候を感じ取るには、5W3Hに基づいて情報収集することが望ましいということも知りました。

「問題」を「課題」に転換すると「どのようにしてやるか」というように、目標を達成するために実行すべきことに変わります。課題を設定する際、困っている状態を解決するために実行すべきことは何か、いかにして解決するかをよく考え、「意思を込めて質問形で表現する」と課題に取り組みやすくなるということが分かりました。

「課題解決スキル」は非常に重要な要素で、主体的に考えて決断し行動することを癖づけない限り、定着しないことを痛感しました。今後、業務に携わるにあたっては、目標を達成するための課題設定に力を入れていきたいと思っています。まずは目標管理カードをもとに課題設定、課題解決の手法を身につけたいと思います。

森之宮病院

看護学生に出張臨床実習指導を行いました

平成26年10月1日～11月1日、神村学園専門課程5年生の老年・統合実習に臨床実習指導者として1ヵ月間参加させて頂きました。前期2週間は老年実習、後期2週間は統合実習と、異なる内容の実習指導を行いました。

老年実習は担当患者を一人ずつ受け持ち、看護過程を展開していく内容でした。実習の目的である「老年期にある対象患者の特徴と家族および支える人々を理解し、加齢と健康障害に応じた看護に必要な能力を養う」にあるように、これまでの基礎実習・成人実習と違い、疾患を抱えながら在宅等へ退院を進めていく過程や、在宅で療養することを踏まえた支援方法を学生に理解できるように説明しました。また、臨床の場と同じように家族の理解や関わりも重要で、対象患者を通してだけでなく、介護する家族の不安の傾聴や軽減につながる支援を考えられるように導いていきました。

実習の場が地域包括ケア病棟であったため、退院支援の過程を学生が経験することで退院後

の生活のイメージを持つことができていたのが印象的でした。

ベッド周辺の環境調整を行う際、学生間でカンファレンスを行い「ベッドの位置を自宅と同じ配置にしてみよう」という学生の意見を聞いた時、これまで病棟で新人看護師には難しいと思っていた、退院支援をさせていなかったことが間違っていたと感じました。退院支援は様々な職種との連携もある難しい業務ですが、これを機に若手の看護師が退院支援を経験する機会を増やしていきたいと考えています。

現在、私自身が退院支援に関わっていますが、学生には臨床の場に立った際にすぐに退院後の生活を見据えた看護をしてほしいと思います。実習中は常に「患者さんに寄り添う」ことの重要性や看取りを目的として退院するケースもあるということ等を指導してきました。この実習を通して、入院時から退院支援が始まることにもギャップを感じてほしくないという私なりの思いを学生に伝えられたと感じています。

(森之宮病院看護部6階東病棟主任 甲斐めぐみ)

ボバース記念病院
森之宮病院

クリスマス会を開催しました

平成26年12月17日、ボバース記念病院では、ゴスペルグループ「輝(きりり)」の皆さんに、クリスマスソングや懐メロ等をトークを交え歌って頂きました。



ゴスペルグループ「輝(きりり)」の方々によるクリスマスソングの一場面

た。普段、あまりお話しされない患者さんが、ソロを歌った小學生に「上手だったね」と笑顔で声をかけたり、自ら握手を求め、満面の笑みで病棟へ戻っていったりする姿を見かけ、楽しいひと時を過ごされたと感じました。

(ボバース記念病院看護部2階病棟 木村亜由美)

森之宮病院

12月24日、森之宮病院でクリスマスコンサートが行われました。

合唱団による鑑賞会が開催されました

平成26年9月17日に森之宮病院1階こもれび広場にて鑑賞会が行われました。

今回、お越し下さったのは、合唱団「Ensemble Musicians (アンサンブル・ミュージクス)」の方々。内容は日本の歌(この道、ロマンチストの豚、夢みたものは、、朧月夜、あんたがたどこさ、故郷)とアンコールのてい

んさぐぬ花を含め、計7曲歌って下さいました。ていんさぐぬ花とは沖縄の方言で鳳仙花という意味で、沖縄では魔除けのために爪を鳳仙花で赤く染める風習があるそうです。

Ensemble Musicians の皆さんの透き通る歌声がこもれび広場に響き渡り、どこか懐かしく心に染みる鑑賞会となりました。



会場は素晴らしい音楽に包まれ、素敵なショーになりました

した。素晴らしい合唱をありがとうございました。素晴らしい合唱をありがとうございました。

(森之宮病院診療技術部検査科 高木慶伸)



素敵な演奏してくれた扇町高校吹奏楽部の皆さん

した。サンタクロースやトナカイの恰好をした扇町高校吹奏楽部の皆さんがクリスマスならではの赤鼻のトナカイ等の曲を、披露して下さいました。幅広い年齢層に楽しめる選曲で、聞きに来ていた皆さんは演奏に合わせて手拍子をしたり、一緒に口ずさんだりと素敵なひと時になりました。

(森之宮病院内科診療部 安武夏海)

平成26年度 大阪府知事表彰を受賞しました

大阪府保健衛生関係功労者・優良施設に関する大阪府知事表彰式典が、平成26年11月5日にエル・おおさか（大阪府立労働センター）の2階エール・シアターにて開催されました。

本表彰は「大阪府における保健衛生の向上に尽力し、その功績が顕著な個人や団体、並びに食品衛生や環境衛生関係等の施設に対し行われるもので、公的な担当各位から評価・推薦されます。今回、食品衛生関係優良施設

設（集団給食施設）として、森之宮病院厨房が、また、栄養関係功労者（栄養指導業務）として、長年、森之宮病院診療技術部栄養サービス科で勤務し、現在、介護老人保健施設グリーンライフ事務サービス部に所属している脇岡澄主任が、大阪府知事表彰を受賞されました。脇岡主任より、「これは、日頃の各部署の方々のご協力により受賞できたもので、皆さんに感謝申し上げます。今後とも、さらに努力して参りますので、ご協力をお願いいたします。」との言葉がありました。これからも関係スタッフの活躍に期待したいと思っています。



今後ますます活躍が期待されるスタッフ達と

（森之宮病院診療技術部部長 竹下誠一）

頑張っている職員に注目！

ただ今、奮闘中

#48



本部 資材施設部資材課

阪本 晃成 課員

現在、本部資材施設部資材課に所属する入職4年目、期待のホープ・阪本課員を紹介します。前職は医療機器卸メーカー勤務で、礼儀正しさと仕事への真摯（しんし）な姿勢が前田局長の目に留まり、本部資材施設部ヘスカウトされました。前職の経験を生かして業者の方との診療材料費の価格交渉や森之宮病院手術室でのサポート業務に尽力しています。前職柄、森之宮病院の病棟に行くと「業者さん！ハンコですか？」とよく業者の方に間違えられる（本人談）らしいです。学生時代はバレーボール選手として活躍し、現在もオフの時は中高校生やママさんバレーのコーチとして汗を流しています。スポーツマンらしく上下関係もきっちりしており、後輩の面倒見も良く、仕事を最後までやり遂げる責任感、資材施設部内でも1、2を競い、法人60周年記念イベント時も委員会メンバーとして最後まで縁の下で貢献していました。今後も法人内外での活躍を期待したいと思います。

（本部資材施設部副部長 津吹将治）

Medical Doctor's Voice #63

生活のあり方を振り返る



森之宮病院診療部内科

小竹 淳一郎

近頃、周りの色々なものが急速に変わっていくのを感じます。気象状況、科学技術、私たちの生活の仕方、そして人と人のつながりまでもが変化しています。数年前まで地方で勤務していましたが、大阪に帰ってきまして、空を見上げることもなく下を向いて歩き、風の香りをを感じることもなく空調の効いている建物の中で一日を過ごすことが当たり前になっていきます。

生活習慣病という概念ができてから約20年になりますが、こういった生活スタイルの変化が今後も生活習慣病発生の要因になっていくことは容易に予想できます。

外来に來られる方に薬を処方し、病状の進行を抑えたり合併症を発症するリスクを抑えたりするよう対処していますが、塩分を控えてとか卵は食べないでとか否定的な言葉ばかりで患者さんの立場でも嫌な思いをされることが多いのでは

ないでしょうか？何か楽しみや実感を持ちながらできる方法について私心がけていること（効果はまだ出ていませんが…）を紹介したいと思います。

それは、季節の移り変わりを色々なところで実感することです。色々な場所に出かけることもいいのですが、それほど遠くに行かなくても自分の足で見つけいくことはできると思います。また、食事の旬のものを用意し、その素材を邪魔しないような簡単な味付けで食べることを意識して頂くと思います。街中でも食べられるようなものは、大体の場合、生活習慣病に悪影響を及ぼすようなものが多く、味もかわりはありません。きちんとした栄養療法は運動療法と同じくらいに手間も暇もかかりませんが、今までの生活を見直しながらも少しでも健康になっていくお手伝いができればと考えています。

森之宮病院で呼吸ケアチームが発足しました

看護の中で感じてきた入院患者さんの「息苦しさ」の不安を解消するために、看護師をはじめ、医師、臨床工学技士、理学療法士等による「呼吸ケアチーム」が昨年に立ち上がりました。呼吸ケアチームでは、患者さんの状態について話し合い、月1回、全成人病棟を対象に回診を行い、患者さんへの人工呼吸管理や呼吸ケアに関する支援を行っています。

呼吸ケア全般の標準化や質の向上をめざして、今後も多くの呼吸器疾患の患者さんに、包括的アプローチによる安心で安全な治療やケアを提供していきたいと考えています。さらに、来年度からはスタッフ教育の一貫として、スクイージング実技講習の実施や呼吸マニュアルの作成にも力を入れていきたいと思っています。メンバーにお気軽にご相談下さい！

(森之宮病院看護部6階東病棟主任 甲斐めぐみ)



安全で安心なケアの提供をめざして呼吸ケアチームは活動していきます

ボバース記念病院歯科診療部口腔外科部長・藤井亮介歯科医師の発表が第42回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会にて優秀賞の表彰を受けました



平成26年10月11日～12日、第42回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会でボバース記念病院歯科診療部口腔外科部長・藤井亮介歯科医師の「全

身麻酔下で歯科治療を行った脳性麻痺患者の栄養状態について」の発表が、全35題の中で、優秀賞(5演題)の1つに選出され、表彰されました。以下は、藤井部長からのメッセージです。「全身麻酔下での歯科治療を行う中で、脳性麻痺患者は低体重の傾向があると感じ、栄養状態を脳性麻痺患者と他の患者との間で比較分

析しました。その結果、脳性麻痺患者は他の患者に比べて、低栄養の傾向があることが分かりました。

今回の発表の成果から、全身麻酔下で歯科治療を行う際、特に脳性麻痺患者に対しては、今後、処置の侵襲度に応じて他の診療科と連携し、術前の栄養管理に注意していく必要があると考えています」

森之宮クリニック・高見元敬所長と細木拓野診療部長が中心となって手がけた書籍『臨床医のためのPET/CTによる悪性腫瘍の画像診断』が出版されました

平成26年11月に森之宮クリニック・高見元敬所長と大阪大学・畑澤順教授の共同編集による書籍『臨床医のためのPET/CTによる悪性腫瘍の画像診断』が南江堂より出版されました。同書は、高見元敬所長とともに細木拓野診療部長、長谷川義尚前副所長が企画、執筆し、完成したものです。PET/CTの画像に加えて胃カメ

ラや病理組織の写真も全てカラーで掲載され、「がんの病変」をイメージしやすいものとなっています。

以下は、高見所長からのメッセージです。「執筆にあたって多くの方々にご協力頂きました。今後は、英訳版も刊行の予定です。国内外を問わず、本書が多くの人達に活用されることになれば幸いです」

ご寄付を頂きました

江原夏代様(大阪市城東区)、松下重子様(大阪市住吉区)、仁張ひろ子様(大阪市平野区)よりご寄付を頂きました。

ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

Live30【ライブ・サーター】 2015年1-2月号 vol.208 (隔月発行)

編集発行人／社会医療法人 大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1
TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

■大道会

社会医療法人大道会本部
TEL 06(6962)9621
森之宮病院
TEL 06(6969)0111
ボバース記念病院
TEL 06(6962)3131
森之宮クリニック(PET 画像診断センター)
TEL 06(6981)9600
帝国ホテルクリニック(人間ドック)
TEL 06(6881)4000
大道クリニック(人工透析)
TEL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ
TEL 06(6965)0666
訪問看護ステーションおおみち
TEL 06(6967)1123
訪問看護ステーションおおみち森之宮営業所
TEL 06(6942)3737
訪問看護ステーション東成おおみち
TEL 06(6977)8680
ケアプランセンター城東おおみち
TEL 06(6964)5285
ケアプランセンター東成おおみち
TEL 06(4259)5311
レンタルケアおおみち
TEL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ
TEL 06(6974)7388
東成山手学園(保育園)
TEL 06(6974)7377

- 本法人の経営理念
 1. 社会から信頼される病院・施設づくり
 2. 安定した経営基盤の確立
 3. 職員の福祉向上と人材育成

- 職員行動モットー
親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない／よく説明する／連携する

- パソコン <http://www.omichikai.or.jp>
- 携帯 <http://www.omichikai.or.jp/i.cgi>

バーコードを読み取っていただく、大道会の携帯サイトにアクセスできます。



編集後記

まだまだインフルエンザに感染する可能性がある季節ですが、皆さんはきちんと感染予防をしていますか?「予防接種を受けたから」「今まで感染した事が無いから」という何の根拠も無い自信を持っている私は、昨年2月に感染してしまいました。初日はとても身体がだるく、普通の風邪と違い、すぐに職場復帰もできず、色々な人に迷惑をかけてしまいました。うがい・手洗いを忘れずに行い、受診者さんやご利用者さんはもちろん、同僚への感染を防ぐように各自で気を付けましょう。
(大道クリニック事務サービス課 主任 馬場先高志)